

新潟市立鏡淵小学校



学校データ

【学級数】

13学級

【児童生徒数】

226人

【地域教育コーディネーターの有無】

有(1名)

地域とかかわり、地域とともに成長し続ける子どもの育成を目指して

1 はじめに

当校は新潟市の中央に位置し、歴史も古い。白山駅、国道116号線に近く、交通の要所である。学校の付近には市役所があり、高等学校が多い。また、新潟市民芸術文化会館や新潟市陸上競技場等、文化・運動施設に恵まれた地区である。

子どもたちは、温かく見守る地域や家庭に恵まれ、のびのびと明るく素直である。特に、地域にある鏡淵小学校区コミュニティ協議会や民生委員児童委員協議会の活動は活発で、学校の諸活動に対しても大変協力的である。こうした恵まれた協力体制の中、地域と学校がかかわり合い、互いの活動が充実することを目指し、活動に取り組んでいる。

2 取組の実際

(1) 人財研（全校各教科）

鏡淵小学校は、平成19年度、20年度オンラインワンスクール推進事業の指定を受け、「ひだまりプロジェクト」を実施し、「ひだまり学校宣言」を行った。地域と密接に連携することが当校の特色ある教育活動の根幹をなしている。

この取組の一環として地域人財と協働する公開授業を行ってきた。それが年に1度行う人財研（協働参画型授業）である。特別支援学級を含めた全学級

が、地域人財と協働で授業を計画・実践している。

① 3年「鏡淵の昔をたんけん！」

（社会 令和元年度実践）

地域に長く住んでおられる元学校薬剤師さんを地域人財として招き、地域の昔の様子を教えていただいた。

「鏡淵小学校は、昔は今とは違う場所にあったの？」「昔は近くの道路に電車が走っていたらいいね。」「白山浦という地名は、どうしてついたのかなあ？」社会科で学習している「変わるわたしたちの暮らし」の発展学習として、鏡淵小学校の移り変わりや地域の昔の様子について、昔の写真を手がかりにして考えたり、お話を聞いたりした。



地域の昔の様子に想いを馳せる子どもたち

② 5年「地域に届け！米粉パン」

（総合 令和元年度実践）

学校の斜め向かいにあるパン屋さんを地域人財として招いた。

社会科で学んだ、食料自給率低下の

問題から発展し、子どもたちは、米の消費量低下を食い止めるにはどうすればよいかという問題意識をもった。地域のパン屋さんとコラボし、米粉を使った新しい商品の開発の仕方を教えていただいた。子どもたちが考えた米粉パンの中から何個かを試作して持ってきていただき、販売実現に向けて、見た目や具材、値段について検討した。

(2) キャリア教育

6年「出 eye ふれ愛鏡淵」
(総合 令和元年度実践)

6学年の総合では、「出 eye ふれ愛鏡淵」と称して、地域の方々の協力を得て、二つの活動を行っている。

一つは、地域で活躍されている方々へのインタビュー活動である。実際に地域の方と触れ合い、その生き方や仕事に対する姿勢を学ぶことで、自分のこれまでの生き方を見つめ直し、自己の将来について考える活動である。元年度は、21人の方にインタビューを行った。

もう一つは、地域での職場体験である。様々な職場での仕事の様子を見学したり、実際に体験したりすることによって、自分のこれからの生き方を考えることをねらいとする活動である。元年度は、13か所の職場から許可を得て活動を行った。

二つの活動を通して、子どもたちは改めて自分たちの住む地域の人・物のすばらしさを感じ取り、自分の今後の生き方に対するビジョンをふくらませるきっかけとなった。

- ・身近な人とのかかわりであるので、子どもたちは自分たちの生活と結び付けやすく、主体的な活動になった。また、地域とのかかわりがその活動だけで終わるのではなく、事後も継続することができた。
- ・地域の財産を生かした活動を行うと、地域からも感謝されることが多く、お互いにとって価値ある活動となった。
- ・それぞれの活動を通して、地域に対する愛着や誇りをもたせることができた。
- ・教員が地域に目を向けた教材開発を行うことで、教員の授業を構想する力が高まり、授業改善にもつながった。

(2) 課題

- ・地域教育プログラムをさらに充実させていこうと全教職員で検討会を設けている。検討すると、恵まれた地域の財産を生かし切れていないことが分かった。新たな地域教育プログラムを創造する検討会を計画的に設定する必要がある。

4 おわりに

鏡淵小学校では、「地域教育プログラム」に該当する活動を以前から行ってきた。協力的な地域の方々の存在や他地域には見られない特色ある施設があるからである。また、継続して行うことができたのは、それらの活動が子どもたちの成長につながることを教師が確信しているからである。今後は、これまであまり接点のなかったテレビ局や老人介護施設との協働を新たに進めていこうと計画中である。

3 成果と課題

(1) 成果